

## ◆平成 29 年度 第 1 回 建設事業外部評価委員会 議事要録◆

1 日時 平成 29 年 11 月 16 日（木） 10:00～

2 場所 神戸市役所 2 号館 4 階 401・402 会議室

### 3 出席者

#### ○委員

井上定子委員、大石哲委員、大内ますみ委員、太田尚孝委員、福島徹委員  
(井料隆雅委員、山村充委員は欠席)

#### ○事務局

建設局技術管理課 ほか

### 4 議事

#### 1) 平成 29 年度建設事業外部評価委員会の運営等について

##### ○委員会の公開について

- ・ 原則、全て公開審議とする。

##### ○会長、会長代理の選出について

- ・ 神戸市事務事業外部評価委員会及び建設事業外部評価委員会に関する規則第 2 条第 1 項に基づき、委員の互選により福島徹委員が会長に選出される。
- ・ 上記規則第 2 条第 3 項に基づき、福島徹会長より大内ますみ委員が会長代理に指名される。

#### 2) 審議

- ・ 審議対象は、社会資本整備総合交付金事業の次の 2 件である。
  - 1) 「地方創生拠点と防災拠点の形成のための「道の駅」整備」
  - 2) 「都市防災の推進による安全・安心なまちづくり（防災・安全）」

#### 3) その他

##### ○今後の予定について

- ・ 第 2 回委員会は、1 月 30 日（火）午後 2 時 00 分から市役所 4 号館 1 階本部員会議室において開催する予定。

##### ○情報の公開について

- ・ 委員会資料については、ホームページでの掲載並びに市民情報サービス課での閲覧により公表する。

### 5 議事要旨

- 「地方創生拠点と防災拠点の形成のための「道の駅」整備」事業担当：建設局道路部工務課

事業担当が、委員会提出資料に基づき評価の内容を説明した。

- ・ 委員より、「指標について、道路標識が果たす役割を踏まえたものとするべきである。効果の発現状況についても、本来の道路標識の目的は『道の駅神戸フルーツフラワーパーク大沢』の周知や円滑な誘導であることを踏まえて資料の表現を見直していただきたい。」との意見があり、  
事業担当は、「今後の計画策定時において、事業の目的を踏まえた指標の設定に努める。効果の発現状況確認のため、今後フルーツフラワーパーク利用者に対して道路標識についてのアンケート調査を行う予定である。」と説明した。
- ・ 委員より、「道の駅利用者はフルーツフラワーパークの利用者数と同数なのか。」との質問があり、  
事業担当は、「フルーツフラワーパーク自体が道の駅となったため、同数である。」と回答した。
- ・ 委員より、「明確な目標を設定し、達成できているので、概ね問題ないと思う。今後は来場者の増加により周辺の渋滞が増えることへの対応も必要だと思う。」との意見があり、  
事業担当は、「今後、案内標識の追加や道路拡幅等を実施していく予定。」と説明した。
- ・ 委員より、「一般的な道の駅と比べると入り込んだ場所にあるという事も、今回の道路標識整備の必要性の説明に盛り込めばよいのではないか。また、今後の道路標識の整備箇所について、こういった箇所に整備するのかの考え方等が分かるようにして欲しい。」との意見があった。
- ・ 委員より、「道路標識に淡河の道の駅も掲載しているのは、戦略的な観点からもよいことだと思う。」との意見があった。

○「都市防災の推進による安全・安心なまちづくり（防災・安全）」事業担当：住宅都市局計画部まち再生推進課

事業担当が、委員会提出資料に基づき評価の内容を説明した。

- ・ 委員より、「P. 17 下ページの『定量的指標の達成状況』について、平成 23 年度末が 13 件となっているが、これは平成 22 年度～か平成 23 年度～どちらの事業で策定したものか。」との質問があり、  
事業担当は「平成 22 年度～の事業にて策定した数である。」と回答した。
- ・ 委員より、「P. 16 下ページの『まちづくりルールの例』について、道路の中心線を確定させていることが写真から読み取れない。」との意見があり、  
事業担当は、「鈺の写真を掲載する等、資料を修正する。」と説明した。
- ・ 委員より、「P. 13 下ページの『定量的指標以外の効果の発現状況』について、地域自主避難訓練は地元が自主的に実施したのか。自主的に実施したのであれば、そのことを明記しておいた方がよい。」との意見があり、  
事業担当は、「防災無線を用いて地元が自主的に実施したものである。」と説明した。
- ・ 委員より、「一般市民が読むには資料のボリュームが多く、また、専門性が高すぎると思う。特に、宅地耐震化推進事業については、詳細については別添資料として本資料から削除する等により簡略化すべきだと思う。」との意見があった。

- ・ 委員より、「P. 25 上ページの中にある、『大きな被害』について、どのような被害を想定しているのか、注釈等で記載しておくべき。」との意見があり、事業担当は、「記載する。」と回答した。
- ・ 委員より、「評価シートの『I 定量的指標に関連する交付対象事業の効果の発現状況』に、『まちづくりルールを策定することができた』とあるが、それにより整備が進んだことまで記載すればよいのではないか。」との意見があった。事業担当は、「記載する。」と回答した。

## ○ 総 括

- ・ 委員より、「今後の計画策定時においては、その事業の本来の目的を踏まえたうえで成果目標を設定するよう努めて欲しい。」との意見があった。